

令和元年6月26日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K11569

研究課題名(和文) 病院看護職の個人および職場の特性と妊娠・出産に関する階層モデル

研究課題名(英文) Hierarchical Models of Individual and Workplace Traits Affecting Pregnancy and Childbirth among Japanese Hospital Nurses

研究代表者

安部 陽子 (Abe, Kiyoko)

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：30629449

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：第一段階では、高・低合計特殊出生率の都道府県で勤務していた看護職28名に面接調査を行った。病院の女性看護職の妊娠・出産と関係する個人、看護単位、病院、地域の特性を抽出した。第二段階では、第一段階の結果・文献検討から質問紙を開発した。高・低合計特殊出生率の都道府県にある2病院の20-49歳の女性看護職にこの質問紙579部を配布した。有効回答247部より、個人の特性44項目、看護単位の特性53項目、病院の特性32項目、地域の特性14項目からなる6段階のリッカートタイプ質問紙を開発した。第三段階では、200床以上の10病院の20-49歳の女性看護職500名に質問紙を配布し、214部を回収した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果からは、個人・職場の特性以外に、文化・制度・政策等を含めた地域の特性が看護職の妊娠・出産と関係することが明らかになった。さらに、病院看護職の未婚女性、既婚女性、子どものいる女性の間では、個人・職場の特性が妊娠・出産と関係する程度を示すモデルが異なることが示唆された。この結果は、看護職の職場環境整備、確保・定着、そして日本の少子化対策に用いることができるため、本研究の意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：In phase 1, the researchers interviewed with 28 female nurses. They were 20-49 years-old and had an experience of working at hospitals in the high and low total fertility rate (TFR) prefectures. The factors relating to their pregnancy and childbirth included various traits of individual, nursing unit, hospital, and community. In phase 2, the researchers developed a scale based on the results of the phase 1 and the literature review. The scale was applied to 579 female nurses aged 20-49, at 2 hospitals in high and low TFR prefectures. Analyzing the data from 247 participants, the researchers confirmed the psychometrics properties of the 6-point, 143-item Likert-type scale. In phase 3, the scale was applied to 500 female hospital nurses aged 20-49 in various prefectures. The responses from 214 nurses were returned.

研究分野：看護管理学

キーワード：少子化対策 看護職

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

今後50年間で、日本の人口は約3割が減少し、2010年の1億1662万人から2060年には8674万人になると推計されている(国立社会保障人口問題研究所、2014)。この人口減少は人口構造の変化を伴っているため、2010年には老年人口に属する1人を生産年齢人口に属する2.8人で支えていたが、2060年には1.3人で支えることになる(国立社会保障人口問題研究所、2014)。

このような人口減少・少子高齢化により、女性が労働力となることへの期待が高まっている。日本の労働力率は、女性48.2%、男性70.8%である(厚生労働省)。その理由は就業している女性の約6割が第1子出産を機に離職している(内閣府男女共同参画局、2013)からだと言われている。実際、女性の年齢階級別労働力率は、「25~29歳」(77.6%)と「45~49歳」(75.7%)を左右のピークとし、「35~39歳」(67.5%)を底とするM字型カーブを描いている(厚生労働省)。

妊娠・出産をきっかけとして離職するかどうかの選択には、学歴、職種、夫の収入等女性個人の特性(新谷、1998)の他に職場の特性(岩澤、1999; 永瀬、1999; 丸山、2001; 大原、佐伯、鴻池ら、2012、北川、2009)が関連していることが報告されている。

さらに、妊娠・出産をきっかけとして離職するかどうかの選択以前に、女性が妊娠・出産するかどうかの選択にも職場の特性が関係している。日本では出生する子どもの約98%が婚姻関係にある男女の子どもであり(厚生労働省、2013)出生数が増加しない要因は、男女が結婚しないこと、結婚しても第2子以降を生まないことだといわれている。

50歳の時点で結婚したことがない人の割合(生涯未婚率)は、1980年の男性2.6%、女性4.6%から2010年の男性20.1%、女性10.6%(国立社会保障・人口問題研究所、2013)へと過去30年間で大きく増加した。18~34歳の未婚者のうち結婚意志のある未婚者は、1年以内に結婚する場合の障害として、男女とも結婚資金(男性43.5%、女性41.5%)を1位にあげているが、2位には男性が結婚のための住居(19.3%)をあげているのに対し、女性は職業や仕事の問題(17.6%)をあげている(国立社会保障・人口問題研究所、2012)。

男女が結婚したとしても、夫婦が理想とする子ども数は2.42人であるのに比べて、予定子ども数は2.07人、最終的な平均出生子ども数は1.96人である(国立社会保障・人口問題研究所、2012)。理想とする子ども数より予定する子ども数が少ない理由を妻の年齢別に見た場合、1位はいずれの年齢においても子育て・教育にかかる費用が高いことがであったが、妻の年齢が35歳未満の場合の2位は自分の仕事に差し支えること、35歳以上の場合の2位は高年齢での出産を避けたいことであった(国立社会保障・人口問題研究所、2012)。これらの調査結果は、仕事に差し支えないよう結婚・妊娠・出産の機会を計っているうちに年齢を重ねてしまい、その後は高年齢から出産をあきらめる女性がいる可能性を示唆する。

加えて、女性の妊娠・出産には職場が立地する地域も関係する(増田、2014)。例えば、3大都市圏に含まれる11都道府県と、その他の36県(地方圏)の2012年の合計特殊出生率(1人の女性が一生の間に生む子どもの数)(厚生労働省、2013)を単純に比較した場合、3大都市圏は平均1.33であるが、地方圏は平均1.50であり、有意差( $z = 3.41$ 、 $p = 0.001$ )が生じている。

仕事をしている女性の20人に1人は看護職(保健師、助産師、看護師、准看護師)である。看護職の94%は女性であり(厚生労働省、2013)、2012年の女性就業者2654万人(総務省、2013)のうち、看護職は137万人(厚生労働省、2013)にあたる。看護職については、離職防止の観点から仕事と育児の両立ができる職場の特性について調査が行われてきた。看護職の51.9%には子どもがいる(日本看護協会、2009)が、このうち何%程度が現在の職場で働きながら妊娠・出産をしているかは報告されていない。また、看護職の個人・職場の特性と妊娠・出産の関係を調査し

たものは、助産師を対象としたもの（北川、2009）などに限られている。

## 2．研究の目的

- 1) 看護職の妊娠・出産と関係する個人・職場（病院および病棟などの看護単位）の特性を明らかにする。（第一段階）
  - 2) 上記の特性を測定するために開発した質問紙の心理測定学的特性を明らかにする。（第二段階）
  - 3) 個人・職場の特性が看護職の妊娠・出産と関係する程度を明らかにする。（第三段階）
- なお、本研究では職場が立地する地域を職場の特性の1つとして取り扱った。

## 3．研究の方法

1) 第一段階では、半構造化面接調査により、看護職の妊娠・出産と関係する個人・職場（病院および病棟などの看護単位）の特性を明らかにした。研究参加者は、合計特殊出生率が低い都道府県（東京、京都、北海道）と高い都道府県（沖縄、島根、宮崎）の病院で働く20～44歳の看護職であった。日本の子どもの99%は20～44歳の女性から生まれていた（厚生労働省、2013）ため、この年代の看護職を対象とした。妊娠・出産をせずに同じ病院・看護単位で4年以上働いている者、妊娠・出産の前後2年間同じ病院・看護単位で働いている者、妊娠・出産の前後2年間同じ病院で働いているが妊娠・出産をきっかけに看護単位は異動した者、妊娠・出産をきっかけに退職した者等を、有意標本抽出法により募集した。それぞれ合計特殊出生率が低い都道府県と高い都道府県について12人程度合計24人程度の面接を予定した。看護職の妊娠・出産と関係する個人・職場の特性について、60分程度、1回の面接を行い、面接の内容をICレコーダで録音し、逐語録を作成した。看護職の妊娠・出産と関係する個人・職場（病院および看護単位）の特性について繰り返し現れる考えを抽出・コード化し、カテゴリに分類した。

2) 第二段階では、第一段階で明らかにされた個人・職場・地域の特性をもとに、6段階のリッカートタイプの質問紙を作成した。北川（2012）の調査を参考に看護職からの回収率を60%と仮定し、300人（DeVellis、2003）からの回答を得るために、合計特殊出生率が低い都道府県の1病院と高い都道府県の1病院から20～49歳の女性看護職250人ずつ計500人程度を募集した。研究協力病院の募集には便宜的標本抽出法を用いた。病院内のすべての20～49歳の女性看護職に質問紙とともにテープ付き封筒を配布し、記入済み質問紙を封筒に入れ封をした上で病院内の所定の場所に提出してもらった。質問紙の項目分析・因子分析を行い、Cronbachの係数を算出した。さらに、看護職個人・職場の特性と、現在の職場における看護職の妊娠・出産経験の有無および妊娠・出産の希望の程度の関係进行分析した。

3) 第三段階では、個人、看護単位、病院、地域の特性が看護職の妊娠・出産と関係する程度を記述するための質問紙調査を行った。看護単位、病院の数が21以上であれば、階層モデル分析の十分な検出力が保証される（Kreft & de Leeuw、2004）。日本の病院の約4割が大都市圏に存在する（厚生労働省、2014）ため、層化無作為抽出法を用いて、200床以上の病院を大都市圏から180病院、地方圏から220病院、抽出した。合計400病院のうち、研究協力に同意した病院の5看護単位から10人ずつ、20～49歳の女性看護職に質問紙を配布した。看護単位には、外来、手術室等も含まれた。看護職は記入済みの質問紙を返信用封筒にて直接研究者へ返送した。また、勤務体制、病床数、看護職員数、設置主体等、看護単位と病院の基本的データも管理者から収集した。

## 4. 研究成果

### 1) 第一段階

研究の第一段階では、病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する個人・職場の特性を明らかにするために、高または低合計特殊出生率の都道府県で勤務していたパートナーはいるが妊娠・出産をしていない看護職6名、妊娠・出産の前後で所属する看護単位を変更しなかった看護職9名、妊娠・出産の前後で所属する看護単位を変更した看護職8名、妊娠・出産をきっかけに退職した看護職5名に対し、1名1回60分程度の面接調査を行った。逐語録の指示的内容分析から抽出された個人の特性には、仕事と妊娠・出産・育児の両立についての本人の考え方、夫、父母・義父母、子どもの状況等、仕事と妊娠・出産・育児を両立するための条件の整備状況が含まれていた。看護単位の特性には、看護単位を管理する師長の特性、同僚の特性、看護単位における看護ケアの提供状況、妊娠中・育児中の者に対する制度の看護単位レベルでの運用状況が含まれていた。病院の特性には、法律で規定された制度の病院レベルでの運用状況、妊娠・出産・育児支援制度、普段からの業務負担軽減策の導入状況が含まれていた。個人・看護単位・病院以外に、小児科・保育園の存在、通勤手段、文化等、地域の特性もデ・タから抽出された。

### 2) 第二段階

研究の第二段階では、第一段階の結果および文献検討を基に個人特性に関する91項目、看護単位特性に関する95項目、病院特性に関する65項目、地域特性に関する16項目、合計267項目6段階のリッカートタイプ質問紙を開発した。合計特殊出生率が低地域の病院(病院1、以下低地域病院とする)には364部、合計特殊出生率が高地域の病院(病院2、以下高地域病院とする)には215部、合計579部の質問紙を20~49歳の女性看護職に配布した。低地域病院からは125部(回答率34.34%)、高地域病院からは137部の回答(回答率63.72%)があった。全体での回答は262部であり、回答率は45.25%であった。男性、50歳以上の看護職員の回答を除いた結果、今回の分析に含める有効回答数は低地域病院から110、高地域病院から137となり、合計247となった。探索的因子分析の結果、124項目を削除し個人特性に関する44項目(4因子26項目と夫に関する12項目、子供に関する6項目、4因子の $\lambda = 0.61 - 0.86$ )、看護単位特性に関する4因子53項目( $\lambda = 0.85 - 0.96$ )、病院特性に関する32項目(3因子24項目と院内保育園に関する8項目、3因子の $\lambda = 0.72 - 0.88$ )、地域特性に関する2因子14項目( $\lambda = 0.74 - 0.85$ )、合計143項目6段階のリッカートタイプ質問紙とした。夫、子ども、院内保育園に関しては回答者が少なかったため、削除せず本調査の質問紙に含むこととした。

### 3) 第三段階

研究の第三段階では、第二段階で開発した質問紙を基に、無記名自記式質問紙調査を行った。層化無作為抽出法を用いて、200床以上の病院を大都市圏から180病院、地方圏から220病院、抽出した。合計400病院のうち、研究協力に同意した10病院5看護単位20~49歳の女性看護職10名ずつ、合計500名に質問紙を配布した。研究協力率は2.5%であった。回収された質問紙は214部であり、回答率は42.8%であった。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 1件)

安部 陽子、福島 通子、奥津 啓子、新田 真由美、千葉 邦子、山本 由香、安島 幹子、佐々木 美喜、岡戸 純一、鶴田 恵子、病院看護職の女性が妊娠・出産しやすい職

〔学会発表〕(計 7件)

安部 陽子、病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する個人・職場の特性、日本医療・病院管理学会 第360回 例会、平成29年

Abe, K., Tsujita, S., Chiba, K., Yamamoto, Y., Nitta, M., Sasaki, M., Furuya, M., Ajima, Y., Okado, J., & Tsuruta, K. Individual and workplace characteristics relating to reproductive behaviors among female Japanese hospital nurses, International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017

安部 陽子、柿澤 由紀子、前川 恭子、新田 真弓、佐々木 美喜、辻田 幸子、安島 幹子、古谷 麻実子、岡戸 順一、鶴田 恵子、本人、同僚、管理者、患者の誰もが納得できる、短時間正職員の働き方、第21回日本看護管理学会学術集会、平成29年

安部 陽子、新田 真弓、千葉 邦子、山本 由香、安島 幹子、佐々木 美喜、岡戸 順一、鶴田 恵子、福島 通子、奥津 啓子、どこが違う？ 看護職が「産める」病院・「産めない」病院、第20回日本看護管理学会学術集会、平成28年

安部 陽子、佐々木 美喜、千葉 邦子、新田 真弓、安島 幹子、山本 由香、岡戸 順一、鶴田 恵子、病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する病院の特性 第1報、第20回日本看護管理学会学術集会、平成28年

安部 陽子、安島 幹子、新田 真弓、佐々木 美喜、山本 由香、千葉 邦子、岡戸 順一、鶴田 恵子、病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する看護単位の特性 第1報、第20回日本看護管理学会学術集会、平成28年

安部 陽子、新田 真弓、山本 由香、千葉 邦子、佐々木 美喜、安島 幹子、岡戸 順一、鶴田 恵子、病院の看護職である女性の妊娠・出産と関係する個人の特性 第1報、第17回日本赤十字看護学会学術集会、平成28年

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホ - ムペ - ジ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名： 鶴田 恵子

口 - マ字氏名： (TSURUTA, Keiko)

所属研究機関名： 聖隷クリストファ - 大学

部局名： 看護学部

職名： 教授

研究者番号(8桁)： 70386788

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名： 谷津 裕子

口 - マ字氏名： (YATSU, Hiroko)

研究協力者氏名： 新田 真弓

口 - マ字氏名： (NITTA, Mayumi)

研究協力者氏名： 千葉 邦子  
□ - マ字氏名： (CHIBA、Kuniko)

研究協力者氏名： 佐々木 美喜  
□ - マ字氏名： (SASAKI、Miki)

研究協力者氏名： 久保 昌子  
□ - マ字氏名： (KUBO、Masako)

研究協力者氏名： 山本 由香  
□ - マ字氏名： (YAMAMOTO、Yuka)

研究協力者氏名： 安島 幹子  
□ - マ字氏名： (AJIMA、Yoshiko)

研究協力者氏名： 岡戸 順一  
□ - マ字氏名： (OKADO、Junichi)

研究協力者氏名： 辻田 幸子  
□ - マ字氏名： (TSUJITA、Sachiko)

研究協力者氏名： 古谷 麻実子  
□ - マ字氏名： (FURUYA、Mamiko)

研究協力者氏名： 高田 由紀子  
□ - マ字氏名： (TAKADA、Yukiko)

研究協力者氏名： 前田 久美子  
□ - マ字氏名： (MAEDA、Kumiko)